令和４年度第３回東海村高齢者福祉計画推進委員会　議事録

日時		令和４年 12 月 19 日（月）午後６時 30 分～午後８時
場所		東海村役場　原子力視察研修室
出席者	委員	薄井委員長，藤澤委員，土屋委員，安田委員，今橋委員，青木委員，砂押委員，根本委員，内藤委員，菊本委員，杉山委員　（欠席７名）
	事務局	（地域福祉課）古川課長，山口課長補佐，ヴァキリ係長，檜山主任，増子主事，（保険課）照沼課長，川﨑課長補佐，上田係長，前田係長，濱保健師，（総合相談支援課）藤田課長，川上係長，武藤係長，（健康増進課）高橋係長
課題		(1) 令和４年度における上半期の取組（中間実績）について (2) 中間実績を踏まえたグループワークによる意見聴取 テーマ：重点事業について (3) その他（ニーズ調査・在宅介護実態調査の村独自追加項目，回収状況等について，総合相談支援課の移転等について）
内容		地域福祉課長挨拶 ・報告事項：介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の回答率は 70%と高回答率。
議題（1） **上半期の取組**		●事務局説明 令和４年度における上半期の取組（中間実績）及び，昨年度のワークショップの意見等から反映した取組について，重点事業の各担当より報告。 ○「介護予防体操の推進」（保険課） 記載のとおり。 ○「認知症予防教室の開催」（総合相談支援課） 高齢者の利用が多い薬局・スーパー等で教室参加を呼びかけリピーターが定着した。その他，記載のとおり。 ○「地域介護予防活動支援事業」（地域福祉課） 感染を懸念し１団体が活動休止であるが，屋外に活動拠点を移したり，大人数での活動を控えたり各団体が工夫を凝らし取組んでいる。 ○「医療と介護の連携の推進」（保険課） 記載のとおり。 ○「総合相談支援拠点の機能強化」（総合相談支援課） 徐々に包括支援センターの相談件数が伸びている。 ○「多様な相談機関との連携」（総合相談支援課） 相談ケースの内容に応じ，関係機関と連携し対応にあたっている。 ○「地域支え合い体制整備事業」（地域福祉課） 地域包括支援センターと連携強化を図り，協議の場や居場所づくり等協働していく体制を築いていくため，説明会の実施やワークショップ等を中心に実施。

	第 2 層協議体に中丸地区が設置された。未設置地区が 2 地区あり，先行地区の取組みを紹介し啓発してゆく。 ○「認知症初期集中支援チームの強化」（総合相談支援課） 記載のとおり。 ○「認知症サポーター養成事業」（総合相談支援課） ステップアップ講座修了者から認知症カフェボランティアが誕生し，課題にあるサポーターの活躍の場の整備に少しずつ取組んでいる。
質疑応答	なし
議題（2） **グループワーク**	●事務局説明 資料：「訂正版　第 3 回　高齢者福祉計画推進委員会のグループワークについて」 「グループワーク名簿」参照。 委員・職員を 3 グループに分け，グループワーク形式で実施。事業内容等の質問は，担当職員がグループ外で待機し対応。 A グループ：①「介護予防体操の推進」，②「認知症予防教室の開催」， ⑨「認知症サポーター養成事業」 B グループ：④「医療と介護の連携の推進」，⑤「総合相談支援拠点の機能強化（地域包括支援センター）」，⑥「多様な相談機関との連携」 C グループ：③「「地域介護予防活動支援事業」，⑦「地域支え合い体制整備事業」 ⑧「認知症初期集中支援チームの強化」
グループ発表	**A グループ：** ・①「介護予防体操の推進」を中心に話し合いを実施。 ・課題にある新規男性参加者については，もともと地域の活動の場に男性の参加が難しい現状がある。高齢者センターやサロンの事業等，住民にまだまだ知られていないものもある。参加したい場に参加できるメニュー作りやバリエーションを作ることと，住民への周知が必要である。 ・参加したくても参加できない交通手段の問題がある。ニーズ把握に取組むことで課題解決に繋がるのではないか。 **B グループ：** ・④「医療と介護の連携の推進」を中心に話し合いを実施。 ・取組内容では，住民向けに専門職に関する研修会とあるが，逆の視点から専門職・多職種間の勉強会も必要ではないか。 ・病院を退院後に在宅又は施設で受け入れる場合に，プライバシーの問題で病院から情報開示してもらえないこともある。どういった情報のやり取りが必要か，ケアマネジャー・病院双方に役立つ東海村版の情報連携ツールがあるとよい。 ・MCS については，他市町村との連携が難しいようだが，村内においては勉強会

	や意見交換の場でしっかり周知し，積極的に活用していただきたい。 ・普段から，病院側，在宅のケアマネジャーやヘルパー・施設側等で，顔の見える関係づくりが大切。 Cグループ： ・⑦「地域支え合い体制整備事業」を中心に話し合いを実施。 ・個人意見になるが，便利な社会になり人に頼らなくなってきており，近隣の人と支え合っていかなくても暮らせて行ける。行政が，グループホームやケアハウス等，既に事業を展開していただいているので，これ以上，手厚い地域支え合い体制整備事業は要らないのではないか。 ・便利な世の中になり，持家を手放し駅近やグループホーム，ケアハウス，老人ホーム等に移る人もいるので，地域支え合い体制整備事業は要らないのではないのかという話がでたが，この事業の課題として，第2層協議体では2地区ができていない。掘り下げて考えると，自治会に人が集まらないことも要因ではないか。便利な世の中になることで，地域の関係性が希薄になったことが問題。 ・高齢化に関わる中で，高齢化の問題を考えながらもそれを支える子供たちを育てることも重要。エンジョイサマースクールで実施している認知症サポーター養成講座などにより，高齢者と小学生，地域の人が交わる機会を少しずつ増やし，みんなで支えていける社会にしていった方がよい。
議題(3) **その他**	【ニーズ調査・在宅介護実態調査について】 ○村独自の調査項目 第2回高齢者福祉計画において追加項目案を提示していただいたが，項目数増加による回答者の負担増加や回収率の低下を考慮し，必要最低限の調査項目とした。結果は，資料のとおり。 ○回収状況 11月にアンケート調査を実施。 ニーズ調査：1,500名に送付し，1,033部の回収（68.9%） 在宅介護実態調査：600名に送付し，342部の回収（57%） 【総合相談支援課】 ・一人一人の暮らしを支える「ワンストップ相談窓口」の周知。 12/5東海村総合福祉センター「絆」内に移転。
質疑応答	・東海村公式LINEを見ているが，総合相談支援課がトップで出てくるなど，もう少しアクセスしやすいとよいと思う。新設したので是非，お願いしたい。
連絡事項	・次回委員会は3月頃に開催予定。詳細については追って連絡する。

以上